

令和元年度病害虫発生予察 病害虫防除技術情報 第5号

令和元年9月20日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

ツマジロクサヨトウの防除について

令和元年7月12日に豊後大野市の飼料用トウモロコシほ場において、ツマジロクサヨトウの発生を大分県で初めて確認しました。その後、日出町、杵築市、日田市、宇佐市などで本虫の発生を確認しています。本虫が確認された市町の飼料用トウモロコシほ場においては指定される薬剤で防除を行ってください。

1. ツマジロクサヨトウ防除に使用可能な薬剤（飼料用トウモロコシ）

農薬名	希釈倍率	使用方法	使用時期	散布量	回数
パダンSG水溶剤	1000倍	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	2回以内
モスピラン水溶剤	6000倍	散布	収穫90日前まで	100～300L/10a	3回以内
スミチオン乳剤	2000倍	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2回以内
トアロー水和剤CT	1000倍	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	回数制限なし
サブリーナフロアブル	1000倍	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	回数制限なし
エスマルクDF	2000倍	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	回数制限なし
フローバックDF	2000倍	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	回数制限なし
エコマスターBT	2000倍	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	回数制限なし

※上記農薬はツマジロクサヨトウに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うための農薬として、使用が可能です。また上記の表のとおりを使用することで出荷停止など流通に支障をきたすことはありません。

2. 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が確認された圃場においては、パダンSG水溶剤、モスピラン水溶剤、スミチオン乳剤による防除を実施してください。また化学農薬が使用できない場合はBT剤であるトアロー水和剤CT、サブリーナフロアブル、エスマルクDF、フローバックDF、エコマスターBTのいずれかを使用してください。
- (2) 発生が確認された市町の飼料用トウモロコシにおいては、本虫の予防的な対策として上記薬剤の使用が可能です。
- (3) 本虫は植物の柔らかい葉を好んで食害し、葉の付け根や新葉内部に食害するため、植物体の上部を重点的に防除するとともに、薬剤は十分量を散布してください。
- (4) 散布した農薬が乾燥する前に降雨があると農薬の効果は著しく低下するので、農薬散布の際の気象には十分に注意してください。
- (5) 農薬の使用にあたっては、散布は無風又は風が弱い時に行うなど近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向、防除器具のノズルの向き等にも十分注意するとともに、隣接農作物の栽培者に対して散布予定農薬の種類や散布時期等を事前に連絡するなど、農薬の飛散（ドリフト）に留意してください。

- (6) 薬剤散布 7~10 日を目安として、生存虫がいないか、食害が拡大していないかなどの効果の確認を行ってください。効果が不十分であった場合、前回用いたものと異なる薬剤による防除を実施してください。
- (7) 薬剤散布ができない場合は、早期刈取りによる青刈りサイレージ処理等を実施してください。刈り取りもできない場合は、被害の拡大や虫の分散等を防止するため、ほ場内にすき込みを行ってください。土の表面に作物が見えなくなるまで深耕すき込み（深さの目安 12cm 以上）を 2 回以上行ってください。
- (8) 本虫が発生したほ場では刈り取り後、速やかに耕転を行ってください
- (9) 本虫の情報については大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページを参照してください。



(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>)